

様式（第5条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第1回行田市郷土博物館協議会	
開 催 日 時	令和7年8月5日（火） 開会：午前10時00分・閉会：午前11時30分	
開 催 場 所	郷土博物館2階 会議室	
出席者（委員） 氏 名	石崎昌稔 松村有剛 大山能則 板垣時夫 田村 均 末木啓介	
欠席者（委員） 氏 名	櫻井真佐美 重田正夫 滝澤布沙 宮本伸子	
事 務 局	館長 鈴木紀三雄 主査 篠田泰輔 主任 澤村怜薫 主任 岡本夏実	
会 議 内 容	(1) 令和7年度上半期事業報告 (2) 令和7年度下半期事業計画 (3) 視察研修について	
会 議 資 料	令和7年度第1回行田市郷土博物館協議会次第 令和7年度第1回行田市郷土博物館協議会資料 令和7年度行田市郷土博物館協議会委員名簿 行田市郷土博物館協議会条例 【リーフレット】令和7年度催しもの案内 【チラシ】忍城ミュージアム通信No.74 夏号 【刊行物】常設展示解説図録 【刊行物】行田市郷土博物館研究報告第12集 【刊行物】戦後80年第35回テーマ展「戦時下の行田」	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴人あり（1名）	
会 議 録 の 確 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 氏 名
	令和7年9月3日	<u>松村 有剛</u>  <u>田村 均</u>

発 言 者	会 議 の 経 過 (議題・発言内容・結論等)
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>1 開会</p> <p>本日の出席について、委員 10 人のところ 6 人である。 行田市郷土博物館協議会条例第 7 条第 1 項で規定のとおり、過半数の出席を賜っているので開催する。 なお、本日の会議は公開となっている。(傍聴人 1 名) また、議事録は市のホームページで公開する予定である。</p>
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>2 任命状交付</p> <p>新しく委員となられた方々に任命状の交付を行う。 (石崎委員に代表して館長から任命状交付。他の新任委員には本日の資料とともに配布済み)</p>
	<p>3 あいさつ</p> <p>生涯学習部次長兼行田市郷土博物館館長 鈴木紀三雄 行田市郷土博物館協議会会長 大山能則</p>
	<p>4 自己紹介</p>
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>5 議事</p> <p>これより議事に入る。行田市郷土博物館協議会条例第 5 条第 3 項の規定のとおり、進行は会長にお願いする。</p>
大 山 会 長	<p>本日の議事については議事録を作成する予定である。 議事録の最後に確認の署名を 2 名の方から頂戴したい。この場でどなたかにお願いしたい。 事務局より提案はあるか。</p>
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>それでは、名簿の順番で松村委員、田村委員にお願いしたい。</p>
大 山 会 長	<p>事務局の提案でよろしいか。</p> <p><b>【全委員了承】</b></p>

大 山 会 長	<p>それでは、2名の方をお願いします。 では、次第に従って議事に入る。 まず(1)令和7年度上半期事業報告について事務局より説明をお願いします。</p> <p>(事務局より、管理部門 資料を説明) (事務局より、学芸部門 資料を説明)</p>
大 山 会 長	<p>ただいま事務局より説明があったが、これについて質問や意見等があったらお願いします。</p>
松 村 委 員	<p>学校との連携について、上半期は2件とのことだが、年間でどの程度来館があるのか。特に市内の小中学校の傾向を知りたい。</p>
事 務 局 ( 鈴 木 )	<p>昨年度の学校の団体見学は計19件であった。</p>
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>今年度は現在予約が入っているのは下半期の事業計画に記載した2件のみだが、これから予約が入ると見込んでいる。</p>
事 務 局 ( 鈴 木 )	<p>例年、小学校3年生の学習内容に対応した博学連携展示を2~4月に実施しており、この時期にあわせた見学が多い傾向がある。</p>
松 村 委 員	<p>このような郷土博物館の催しなどは学校や子どもたちへどのような形で周知しているのか。</p>
事 務 局 ( 篠 田 )	<p>例年、市内小中学校の校長会で説明を行っているほか、個別の催しの案内と詳細については、年4回発行しているミュージアム通信を市内小中学校の全児童へ配布している。</p>
大 山 会 長	<p>学校からの来館については、過去の実績統計を参照し、検討するのもよいと考える。</p>
石 崎 委 員	<p>小学校は来館の機会が多いが、中学校は職場体験学習などの受け入れを除けば利用の機会は少ない。ただし、行田の歴史・文化の魅力をより知ってもらうには、中学生以上の子どもたちに郷土博</p>

	<p>物館に足を運んでもらいたいと感じている。学校としてもできるかぎり努力していきたい。</p>
事務局 ( 篠 田 )	<p>市内の小中学校のなかでも、たとえば学校と郷土博物館間の交通手段の少なさや、来館機会の確保の難しさなども学校によって異なると考えている。来館が難しい場合に備えて、出張博物館という学芸員が学校に出向き、子どもたちへ資料をとおして行田の歴史・文化に親しんでもらう取組も用意している。引き続き、コンテンツの充実と周知に努めていきたい。</p>
大山 会長	<p>市内の小中学校ともコミュニケーションを取りつつ、郷土博物館を利用してもらえる取組を引き続き実施してもらいたい。</p>
末木 委員	<p>学校との連携にあたって、すでに実施されているかもしれないが、館蔵資料デジタルアーカイブなどを介して、今後学校向けコンテンツの公開を検討してみてもどうか。具体的な学校のニーズは、博学連携検討委員会の議題としてもよいのかもしれない。</p>
事務局 ( 篠 田 )	<p>検討していきたい。</p>
板垣 副会長	<p>物販コーナー拡充にあたって、ミュージアムショップに配置されている職員や売上の取り扱いはどうなっているのか。</p>
事務局 ( 篠 田 )	<p>ミュージアムショップには、(一社)行田おもてなし観光局(以下、観光局と省略)の職員を配置し、売上金も彼らを取り扱っている。これは、地方自治法第238条の4第7項に基づく行政財産利用を適用して、観光局へ場所を貸し出しているものである。そのため、これまで郷土博物館が取り扱っていたミュージアムグッズは、一度観光局が仕入れて、それを販売する形となっている。</p>
板垣 副会長	<p>これまでも充実した刊行物やグッズを取り扱っていたが、それらがより見やすく陳列されていて、利用しやすい形になったと感じる。</p>
田村 委員	<p>新規ミュージアムグッズの博物館オリジナル忍城御城印は阿部</p>

	家をモチーフにしたものとのことだが、ほかに松平家のものなどはあるのか。
事務局 (澤村)	忍城の御城印は現在、限定の品物を含めて5種類ある。うち3種類が観光局のグッズ、2種類(阿部家・松平家)が郷土博物館のグッズである。
末木委員	館蔵資料デジタルアーカイブは、今後どのような計画で整備されていく予定なのか。また、公開する資料の選定基準があればお聞きしたい。
事務局 (岡本)	昨年度から運用し、昨年度末時点で200件を公開した。今年度200件を追加する方針である。公開する資料は、来館者や利用者から問い合わせやニーズの多い資料を優先しつつ、展覧会開催にともなって資料画像まで整備できたものを順次選定している。
大山会長	では、(1) 令和7年度上半期事業報告については終了する。 次に、(2) 令和7年度下半期事業報告について事務局より説明をお願いします。  (事務局より、管理部門 資料を説明) (事務局より、学芸部門 資料を説明)
大山会長	ただいま事務局より説明があったが、どなたかご質問や意見等があったらお願いします。
田村委員	巡回展示「南河原の歴史」はとてもよい企画だと感じる。ぜひ地域の歴史・文化を大切に紹介してほしい。ポスターやリーフレットは作成するのか。
事務局 (篠田)	本企画については印刷製本費を支出してポスター・リーフレットを作成する予定はない。市内公共施設へ広報できるよう、市役所の庁内印刷等を活用してチラシの掲示・配布を依頼したいと考えている。

田 村 委 員	「南河原の歴史」巡回展示会場に、Vert Café が選ばれているという事もよいと思う。ぜひ今後もこうした歴史的建造物を活用して欲しい。
板 垣 副 会 長	下半期は年末に臨時の長期休館が予定されている。この広報はどのように行う予定であるのか。
事 務 局 ( 篠 田 )	市内へは市報ぎょうだや市公式 SNS 等を通じて周知したいと考えている。
板 垣 副 会 長	郷土博物館へは市外から来館される方も多いと感じる。一方、臨時休館の通知のみを大量に発送するのも労力とコストを要する。それならば、休館前の時期に開催する第 38 回企画展「魚食のグルメ」のポスター・リーフレットへ、休館情報を掲載してはどうか。
事 務 局 ( 篠 田 )	ポスター制作時にぜひとも検討したい。
田 村 委 員	普及事業のなかの「忍城址を歩こう」は、どのような企画か。
事 務 局 ( 澤 村 )	令和 3 年度から開催している史跡探訪（まち歩き）講座で、毎年定員 20 名を越えて問い合わせがある。内容は、郷土博物館の常設展示室で忍城の構造をジオラマで確認してから 2 時間で帰着できる範囲で城下の遺構や痕跡を辿るものである。
田 村 委 員	忍城は目立った城郭の遺構や武家屋敷等がないため、一見するとここに城郭があったことすら分かりづらいが、丹念にまちを歩くことで、その魅力を感じることができる城である。ぜひ、参加者の方にも何度も足を運んでもらって、地域の魅力を伝えてほしい。
大 山 会 長	同じく普及事業の古文書講座について、参加者は毎回同じようなメンバーなのか。
事 務 局	おおよそ 6 割が複数年度にわたり受講の経験があるリピーター

<p>( 澤 村 )</p>	<p>である印象を受けている。一方、4割の入れ替わりについては、毎回様々な分野や地域をテーマとして広報するため、特定の事柄に興味を抱いて参加する方も一定数含まれているのではないかと思います。</p>
<p>大 山 会 長</p>	<p>では、(2) 令和7年度下半期事業報告については終了する。最後に、(3) 視察研修についてである。視察研修は委員皆さん参加のもと実施できればと考えており、毎年実施するのは委員皆さんの都合等もあることから、必要事項が出た際に視察研修を実施するのがよいのではないかと思います。これを全委員の総意としてよいか。</p> <p><b>【全委員了承】</b></p>
<p>大 山 会 長</p>	<p>他に意見等なければ、以上で議事を終了する。皆様の御協力で議事がスムーズに進行したことに感謝を申し上げ、議長をおろさせていただく。</p>
<p>事 務 局 ( 篠 田 )</p>	<p>本日は長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。それでは、閉会のご挨拶を副会長よりお願いする。</p> <p>6 閉会 行田市郷土博物館協議会 副会長 板垣時夫</p> <p>※ミュージアムショップ視察、戦後80年第35回テーマ展 展示見学</p> <p style="text-align: right;">以上</p>